

5 ジェンダー平等を
実現しよう



「令和6年度都道府県・政令指定都市男女共同参画主管課長等会議」事例報告

神奈川県川崎市 男女共同参画センターの 防災への取組み紹介

女性の防災リーダーの育成と参画

SNS でも情報発信！



@scrum21kawasaki



@scrum21_kawasaki



@scrum21_

川崎市男女共同参画センターの概要

公設民営

設置主体：川崎市 ※市制100周年 人口150万人超

(所管課：市民文化局 人権男女共同参画室)

位置づけ：男女平等かわさき条例 (平成13年10月1日施行)

第16条に基づく拠点施設

性別にかかわらず、その個性と能力を十分に
発揮することのできる男女共同参画社会の実現を
めざし「川崎市男女平等推進行動計画」に基づいて事業を推進



- 事業内容：**
- ①講座・研修・イベント事業
 - ②相談・居場所づくり事業
 - ③情報収集・提供事業
 - ④調査研究事業
 - ⑤連携・ネットワーク事業



管理運営：社会福祉法人共生会SHOWA (2021年度～)

※指定管理者制度導入 2006年～

開館年月：1999 (平成11) 年9月

施設概要：鉄筋コンクリート構造 単独館 (地上4階・塔屋1階)

所在地：川崎市高津区溝口2-20-1 (高津区に1か所)

(1) 開館時間：8時30分～21時30分／貸館 9時～21時30分

(2) 休館日：年末年始 (12/29-1/3) 及び第3火曜日



くらも21

防災プロジェクトの取り組み（2012～24年度）

目的

本事業の目的は以下の2点。

防災分野における女性のリーダーを増やしていくこと
男女共同参画の視点から防災に取り組む人（主に女性）をつなげるこ
とにより地域の防災力を強化していくこと。

対象者

テーマに関心のある市民（女性）、
自主防災組織で活動している方や地域で防災に取り組んでいる方

内容

男女共同参画の視点から防災に取り組む人材の育成につながる研修と
参加者同士のネットワークづくりを事業として実施

- ①人材育成のための研修（5講座）
- ②交流会の開催（年1回）
- ③その他：プロジェクトメンバーと共催での企画講座（1講座）
防災出前講座やブース出展（通年で10件程度）

次は、これまでの
事業プロセスを
3つの段階で
紹介します

①2012～2013年度

プロジェクトの立ち上げ期

②2014～2019年度

危機管理部門や区との関係づくり

③2020～2024年度

市内でのネットワークづくり

① プロジェクト 立ち上げ期

平成23年(2011)3月11日 東日本大震災発生

- 川崎市でも、女性の視点を盛り込んだ防災の取り組みを進めていこうという動きが始まる
- 福島からの避難者の受け入れ(川崎市内のアリーナ)があり、その支援(物資支援・相談会)を実施

ボランティアとしてかかわっていた女性の市民の方たちの声を生かし
活動としてつないでいくことを考える

2011(平成23)年9月1日
防災冊子を作成する制作準備メンバーを募集

公募のメンバーとインターンシップの大学生が一緒になって、取材・インタビュー・アンケート調査の実施講座の企画に関わる準備と当日の運営を行う。



2012年9月
(平成24)

「女性の視点でつくるかわさき防災プロジェクト（通称：JKB）」 が立ち上がる

プロジェクトの活動内容

活動1 防災に関する調査活動や冊子の作成

活動2 防災講座の企画・実施

活動3 情報の発信・普及活動

活動4 出前研修・防災イベント
防災訓練へのブース出展



↓
2013年度
(平成25)



防災プロジェクトの取り組み②（2014～19年度）

②

危機管理部門や
区との関係づくり

2014年度
(平成26)



センターとJKBと一緒に防災プロジェクトを進める。
メンバー内の入れ替わりがあるものの活動は緩やかに継続。
毎年、防災アクションリサーチ報告書を危機管理部門へ送付。

2019年度
(令和1)

- 当時の危機管理室（現 危機管理本部）と連携して企画・実施
（課題）毎年、リーダー研修の参加者が男性中心になりがち
（対応）川崎市自主防災組織連絡協議会
⇒ 川崎市の各区の自主防災組織から女性リーダーの候補者を推薦してもらい、全7区・7か所で共通の研修を実施

令和元(2019)年度 自主防災組織リーダー等養成研修

年間のテーマ 「女性の視点から防災・減災を考える」 避難所における二次被害の実態や、被災地域での課題などについて、座学により研修。

川崎区

9/20



参加者 116 名
(女性: 72 名)

幸区

10/24



参加者 40 名
(女性: 25 名)

中原区

9/10



参加者 68 名
(女性: 58 名)

高津区

9/11



参加者 39 名
(女性: 30 名)

宮前区

8/26



参加者 51 名
(女性: 40 名)

多摩区

9/17



参加者 12 名
(女性: 11 名)

麻生区

9/2



参加者 67 名
(女性: 40 名)

7区・7回 共通の研修

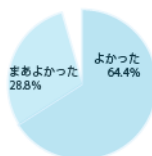
(共通) 研修内容

- ①被災地に学ぶ災害時の課題
- ②KAWAHUG(避難所運営ゲーム)
- ③振り返り・工夫点の共有
- ④女性の視点から避難所での困難課題について考える
- ⑤平時の備えについて

アンケートの結果より (N=341)

①研修満足度

93.2%

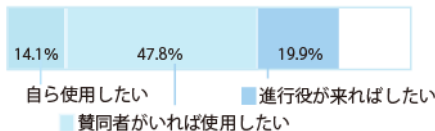


②女性の視点からの防災・減災に関する必要性

必要性を感じた 82.1%

③KAWAHUGを今後、地域で使いたい

81.8%



11 / 6

ワーキング1日目

【内容】

- ①台風19号の経験を共有する
- ②災害時のタイムラインに沿って考える
- ③訓練メニューについてのアイデア出し
- ④グループで話し合い、班ごとに発表

参加者 18 名

11 / 22

ワーキング2日目

【内容】

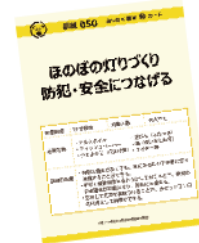
- ①前回の振り返り
- ②被災地の様子から訓練に必要な視点を学ぶ
- ③訓練メニューの作成・実践
災害時のトイレ対策/防犯のつなげる灯りづくり

参加者 18 名



20/1/17

川崎市自主防災組織連絡協議会主催の「防災シンポジウム」にて参加の女性2名が取組みについて発表



ワーキングを通じて作成した訓練メニューを配布資料として用意。



研修 049

おんぼろで訓練 コード

ほのぼの灯りづくり
安心・安全につなげる

所要時間	15分程度	対象人数	何人でも
必要な物	・アルミキール ・ティッシュペーパー ・つまようじ (穴あけ用) ・懐びん (ふたつき) ・油 (使い古しも可) ・ライター等		
訓練の効果	・特別な備えがなくても、家にあるもので手軽に灯り確保することができる。 ・手早く複数箇所作れるようにしておくことで、夜間の安全確保が可能になり、防犯にも使える。 ・応用して灯芯を複数つなぐことで、カセットコンロの代用として活用ができる。		



女性の防災プロジェクトの取り組み③（2020～24年度）

③

市内での
ネットワーク
づくり

2020年度
(令和2)

2024年度
(令和6)

現在

- 研修（全5回：各回…座学+ワークショップ）
研修受講終了後に、参加した女性たちが、普段活動している場（PTAや市民グループ、消防団、自主防災組織やマンション管理組合、職場など）で講師・説明者として活躍ができるように「知識」習得+「ワークショップの実施方法」が学べる研修会を⇒修了証発行
- 研修の修了者をJKBメンバーに登録意向確認（希望制）
- 常時、グループLINEで取り組み情報の共有
- 防災イベントや出展イベントへの参加
- 交流会の開催



2024(令和6) 年度 無 料

女性の視点から災害を考える 勉強会（全6回）

（全6回）いずれも13:30～15:30

女性視点から災害を考える勉強会（全6回）
女性視点から災害を考える勉強会（全6回）
女性視点から災害を考える勉強会（全6回）

日時 8/26、9/30、10/7、10/21、11/4、11/18（全6回）いずれも13:30～15:30

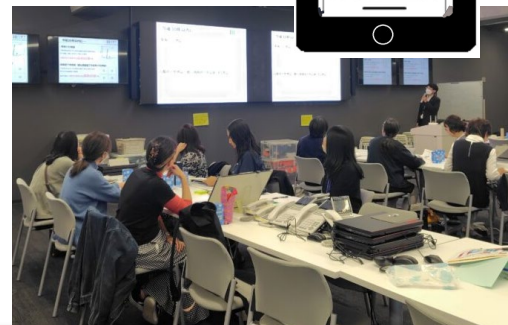
対象 女性視点から災害を考える勉強会（全6回）
女性視点から災害を考える勉強会（全6回）
女性視点から災害を考える勉強会（全6回）

定員（講師） 全回参加が可能な方 先着30名

場所 川崎市男女共同参画センター（すくすく）3022室（川崎市中原区上川崎）

申込 2024/7/29（月）10:00より受付
ホームページから申込みください。
こちらを印刷するとメール申込にも使えます。
TEL: 044-813-0008（お問合せ時間9:00-17:00）

主催：川崎市男女共同参画センター・女性の視点から災害を考える勉強会実行委員会



防災プロジェクトにおける各段階ごとの成果と課題

①2012～2013年度

プロジェクト
立ち上げ期



成果

男女共同参画の視点からの防災に関心ある個人を中心に参加。市民グループ誕生。

課題

知識を習得してもプロジェクトの活動以外で十分に活かさない。市全体に広がらない。

②2014～2019年度

危機管理部門や区との関係づくり



危機管理部門の協力を得たことで自主防災組織に関わる女性たちに参加してもらえた。男性の理解者も増えた。

「女性の視点」というテーマとしての扱いにとどまり、継続して分野横断的な取り組みの強化につながらない。

③2020～2024年度

市内でのネットワークづくり

参加メンバーが増加。普段の活動の場で活躍している人同士が研修へ参画。7区で活動できる人が少しずつ広がりつながる。

女性の防災リーダーを数として増やしていくための取り組みの加速化&強化。

男女共同参画の視点は分野横断的。 防災部署との連携は必須。他部署とも積極的に。

とにかく、まめに相談・連絡・報告

- 市の「避難所運営マニュアル～地震災害対策編～」の改訂（川崎市総務局危機管理室 平成26年4月1日）にあわせて、「男女共同参画の視点でつくる避難所運営ガイド」を作成
- 冊子は、危機管理部門にページ構成や内容を相談しながら作成。危機管理部門だけでなく、危機管理部門からあるいは所管課に他部局を紹介してもらい、関係を作っていた。
- 危機管理部門にセンターが取り組む防災プロジェクトの活動は1年間の取組報告書として共有
- 職務関係者が研修を受けられる機会づくり。
- プロジェクトの研修においても連携・協力を依頼。（講師としてお願いすることもある）。

